
日本図書館文化史研究会
ニューズレター

第 88 号 2004 年 5 月 24 日

日本図書館文化史研究会

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1
明治大学司書・司書教諭課程
郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黑浩司

ファックス

電子メール oguro@sakushin-u.ac.jp

■■ 目 次 ■■

2004 年度第 1 回研究例会のご案内	2
研究例会発表募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2004 年度研究集会・総会のご案内	5
昔の帝大図書館—その休館日と開館時間— (田澤 恭二)	8
『図書館文化史研究』第 22 号原稿募集のお知らせ	
2003 年度第 3 回研究例会報告	10
『ニューズレター』原稿募集のお知らせ	
運営委員会通信	11
事務局だより	12
会費納入のお願い	
会員動向	

2004 年度第 1 回研究例会のご案内

2004 年度第 1 回研究例会を、下記のように開催します。

今回の会場は、この春完成した明治大学「アカデミーコモン」に移転した、同学司書・司書教諭室です。ニコライ堂など神田駿河台の絶景を見渡しながらの研究例会です。

是非ともご参加ください。

記

- 日 時 6 月 19 日 (土) 14 時 30 分～16 時 30 分
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン 8 階 司書・司書教諭課程室
※ アカデミーコモンの位置、また同所への交通等は 4 ページ掲載の地図をご参照ください。
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、または電子メールでお申込ください。
- 申込締切 6 月 16 日 (必着) をお願いします。
- 内 容

【発表 1】

- 発表者

小川 徹

- 発表題名

「司書」が明治期、図書館専門職の名称として定まったのはなぜだろうか

- 発表要旨

1891 (明治 24) 年、東京図書館官制が改正され、そこに「司書」が姿を現します。それはやがて定着します。しかし何故明治になって、図書館専門職の呼び名として「司書」という用語が選ばれたのだろうか、歴史をややさかのぼってトレースしてみようと思います。

【発表 2】

- 発表者

宇治郷 毅

- 発表題名

石坂荘作と石坂文庫—日本統治期台湾における一図書館史の研究—

- 発表要旨

石坂荘作(1870-1940)は、日本統治期(植民地期)の台湾で、1899(明治32)年より死去する1940(昭和15)年まで、基隆で度量衡器商店を経営するかたわら、台湾の行政、産業、社会事業、教育、文化など多くの分野で活躍した。特に、日本人及び台湾人貧困青少年対象の夜間学校、女子職業学校及び図書館経営に貢献が大きい。

1909(明治42)年、石坂荘作によって私立の公共図書館として設立された石坂文庫は、1910年代及び1920年代の台湾の図書館界において重要な役割を果たした。台湾における最初の近代的図書館であった。石坂文庫は、多くの図書館活動分野で先駆的役割を果たしたが、中には日本本土の図書館を凌駕する活動もあった。それらは、以下のごとし。

- ① この図書館は、日本人、台湾人大衆に平等に公開された。
- ② 利用者は、この図書館の資料を無料で利用できた。
- ③ 独自の建物、設備、資料、法規及び職員を有した。
- ④ 台湾内だけでなく、中国沿海都市及び沖縄にも館外貸出(「巡回書庫」)サービスを行なった。
- ⑤ 三つの分館と一つの簡易新聞雑誌縦覧所を有した。分館の一つは、台湾人居住区に設置された。
- ⑥ 13年間にわたり、内容の充実した年報(「石坂文庫年報」)を発行した。

1925(大正14)年、私立「基隆文庫」に、1932(昭和7)年、「基隆市立基隆図書館」に改称、1945年8月、台湾人経営に移管され、現在は「基隆市立文化センター図書館」となる。石坂荘作が図書館活動において目指した「大衆のために図書館を」、「図書館を大衆の中に」という理念は、現図書館の活動の中で実現しつつある。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回(6月頃、12月頃、3月頃)に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

- 氏名(所属)
- 連絡先(住所、電話、メールアドレス等)
- 発表題目
- 発表要旨(200字程度)
- 発表時間(通常質疑応答を含め1件1時間程度)
- 発表希望場所(例:関東、関西)

会場案内

日本図書館文化史研究会 2004 年度研究集会・総会のご案内

2004 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、おおむね下記のように開催することになりました。

今年度の研究集会では、会場校・京都精華大学情報館の見学会、河井弘志先生の特別講演など、充実した内容となりました。多くの方のご参加を期待します。

なお、内容等の詳細については、次号のニューズレターで、お知らせします。

記

- 日 程 2004 年 9 月 11 日 (土)・12 日 (日)
- 会 場 京都精華大学 黎明館 001 教室
- 交 通 京阪出町柳駅から叡山電車鞍馬行き (または二軒茶屋行き、市原行き) に乗り換え、京都精華大前駅下車徒歩 1 分
京都駅から京都市営地下鉄烏丸線国際会館駅下車、タクシーワンメーター程度
※ 会場・交通案内の地図は 7 ページに掲載しました。また、次のアドレスをご参照ください。
※ 11 日のみスクールバスあり (当日のダイヤも次のアドレスをご参照ください)。
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/annai/index.htm>
- 参加費 会 員 1,500 円
非会員 2,000 円
懇親会 5,000 円
- 申込方法 次の事項を明記して、下記まで電子メール、または葉書でお申込ください。
 - ・氏名 (ふりがな)
 - ・会員・非会員の別
 - ・所属
 - ・情報館見学会参加の有無
 - ・懇親会参加の有無
- 申 込 先 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町 137
京都精華大学人文学部 田口瑛子
電子メール :
- 申込締切 8 月 22 日 (必着)

○ プログラム

第1日

- 11:30-12:00 京都精華大学情報館見学（職員のガイドつき）
 コミック漫画資料、AV 資料等の特色あるコレクション
 準備の都合上、事前申込者のみの見学とし、当日参加は受け
 付けません
- 12:00～ 受付開始
- 12:30-14:00 特別講演「図書館史と図書館思想史と図書館学史」
 河井 弘志
- 14:10-17:30 シンポジウム「戦後公共図書館実践の再検証」
 パネリスト 石塚 栄二
 伊藤 昭治
 塩見 昇
- 17:40-19:30 懇親会（京都精華大学学生食堂・会費 5,000 円）

第2日

- 9:45～ 受付開始
- 10:00～11:00 個人発表1 : 20 世紀前半のドイツの公共図書館と女性
 新藤 晶子（多摩市立多摩永山中学校）
- 11:00～12:00 個人発表2 : 学校図書館蔵書をめぐる合衆国判決群の論点
 前田 稔（東京学芸大学）
 （昼 食）
- 13:00～14:00 個人発表3 : 間宮不二雄と『図書雑誌』、『図書館研究』
 志保田 務（桃山学院大学）
- 14:00～14:30 個人発表4 : ドイツでの図書館史研究の現状（Library
 history in Germany: the state of the art）
 ピーター・ヴォドセク（Peter Vodosek）
 （シュトゥットガルト専門大学）
 翻訳発表：佐橋恭子（京都大学大学院教育学研究科
 図書館情報学研究室）
 金城まりえ（京都ドイツ文化センター）
- 14:30～15:30 会員総会

※ 昼食について

会場周辺には食堂等の施設がありませんので、各自昼食のご用意をお願いします。なお、11 日（土）は、学食の利用ができる見込みです。
 研究集会会場隣に、昼食・休憩室を用意しました（黎明館 002 教室）。

※ 宿泊の斡旋について

宿泊の斡旋は行いませんので、各自ご手配ください。なお、会場への交通の便がよい宿泊施設としては、次のようなところがあります。

- アピカルイン京都（叡電「修学院駅」より 2 分）左京区松ヶ崎橋西詰 075-722-7711
- ホリデイイン京都（叡電「茶山駅」より 12 分）左京区高野西開町 36 075-721-3131
- 京大会館（京阪「丸太町駅」より 10 分）左京区吉田河原町 15-9 075-751-8311
- 京都ガーデンパレス（地下鉄「今出川駅」出口⑥から 8 分）上京区烏丸通下長者町上ル龍前町 605 075-411-0111

会場案内

昔の帝大図書館—その休館日と開館時間—

田澤 恭二

私の手元に、戦前の帝大図書館関係の資料が若干ある。いずれもコピーだが、かなり昔のもので、以前私が、日本の大学図書館の歴史を調べようとした時に集めたものである。今回は、そのうちの2点を紹介したい。これらは、一見無味乾燥な文書だが、詳しく読んでみると、当時の大学図書館のサービス水準の大体を知る事ができ、さらにそれらを通じて、その時代の雰囲気がかすかに感じられてくる。興味を持つ方もおられると思うので、この2点によって、当時の帝大図書館の状況を、休館日と開館時間を中心に簡単に説明したい。

1 京都帝国大学附属図書館の状況

『京都帝国大学附属図書館規則 附同執行手続』(明治37年)によって説明する。同館は明治32年の開館であるので、創立5年目の状況である。休館日や開館時間の記述は複雑になっているが、整理すると次のようになる。なお、この規則は、おそらく当時の東京帝国大学附属図書館の規則を援用したものと思われる。またこの時代は、9月が大学の新学期で、7月が学年末であった。

A 休館日

毎月1日

8月1日～8月21日

12月28日～翌年1月3日

授業休業中の日曜日・大祭祝日

冬季休業中(12月25日～翌年1月10日)

春季休業中(4月2日～4月10日)

夏季休業中(7月11日～9月10日)

B 開館時間

平日(9月11日～翌年4月30日)

午前8時～午後9時

平日(5月2日～7月10日)

午前7時～午後9時

夏季休業中(休館日を除く7月11日～9月10日)

午前7時～正午

休業中以外の日曜日・大祭祝日

午後6時～午後9時

この規定でいささか奇異に思われるのは、休館日の筆頭が日曜日や祭祝日でなく、毎月1日となっている事であろう。この月例休館日が1日に決まった理由は定かではない。日曜・祭祝日は、授業休業中のみ休館で、平常は夜間に開館しており、休館日にはなっていない。これは恐らく、日曜日の午前中に教職員・学生が教会へ行く事を前提とした当時の全寮制の米国大学図書館の規則が、東京帝大図書館の規則を経由して反映したものである。学生にとっては、便利な規定ではあった。そして、8月1～21日の連続休館は、暑中休暇とお盆休みが合併したものである。年末年始の休館は、現在とほぼ同じである。

開館時間は、夏季休業中の午前 7 時～正午、休業中以外の日曜・祭祝日の午後 6 時～午後 9 時以外は、現在とあまり変わりはない。夏季休業中の正午までの半日開館は、当時の官吏（現在の国家公務員）の勤務時間が、夏は正午までの半ドンだったからであろう。しかし、朝の開館時刻が現行より早いのは、明治の人が早起きだったからだろうか。特に、5～9 月の午前 7 時は、今の感覚で言えばかなり早く感じられる。もっとも、戦後でも旧制大学は授業が午前 8 時開始であったから、明治の京都帝大でも授業は朝早かったに違いない。当時の図書館職員はどのような勤務時間体制をとっていたのか、知りたいものである。

2 東京帝国大学附属図書館の状況

上記の京都帝大図書館規則のルーツとなったと思われる、明治期の東京帝大図書館の規則があればよいのだが、残念ながら所蔵していない。そこでここでは、入手できた最古の資料である『東京帝国大学附属図書館利用者案内』(昭和 8 年)によって説明する。関東大震災後の新しい図書館の時代である。なお、この頃は、大学も 4 月が新学期で、3 月が学年末になっていた。

A 休館日

日曜日・祭祝日

本学記念日（4 月 12 日）

12 月 28 日～翌年 1 月 7 日

B 開館時間

3 月 1 日～7 月 20 日

午前 8 時～午後 9 時半

7 月 21 日～8 月末日

午前 8 時～正午

9 月 1 日～10 月末日

午前 8 時～午後 9 時半

11 月 1 日～翌年 2 月末日

午前 8 時半～午後 9 時半

この規定は、上記の京都帝大の例から約 30 年後のものなので、休館日については、毎月 1 日の休館やお盆休みが無くなり、かなり現代風になっている。しかし開館時間関係は、開館時刻の午前 7 時は消えたが、あとは京都帝大と大差無い。ともかく館内閲覧中心の時代だったので、年間延べの開館時間は長かったようだ。夏季休業中の正午閉館の規定は、やはり、当時の官吏の勤務時間に合わせたのであろうが、冷房の無い当時の西洋建築では無理もない規定だったかもしれない。

以上、簡単ではあるが紹介を終わりたい。

(2004.2.21)

『図書館文化史研究』第 22 号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第 22 号の原稿を募集します。

原稿の締切は 2004 年 12 月末日です。ふるってご投稿ください。

なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

2003 年度第 3 回研究例会報告

大阪府立中之島図書館は本年創立百年を迎えました。今回の研究例会は、その記念事業のひとつである展示「この街と 100 年 大阪府立中之島図書館」の開催時期にあわせ、同館のご理解とご協力をいただき、実施したものです。

まず同館に隣接する大阪市中央公会堂において、中之島図書館大阪資料室室長の平野翠氏に「大阪府立中之島図書館草創期の寄贈」と題する研究発表をお願いしました。

氏は 1904 (明治 37) 年開館の大阪図書館 (現中之島図書館) が、その開設準備室が発足する以前から、企業、個人から資料の寄贈が相次ぎ、開館 10 年後の 1914 年には、蔵書のうち三分の一は寄贈書によるものであったことを指摘され、代表的な寄贈資料をご紹介いただきました。

なお、今回のご発表の詳細については、やはり百年記念事業のひとつとして刊行された、同館編集による『中之島百年：大阪府立図書館のあゆみ』(2004 年 2 月、385,90p) をご参照ください。

平野氏の発表の後、国の重要文化財に指定されている中之島図書館の見学を行いました。貴重書庫では平野氏のご案内により、『正平版論語』や『慶長古活字版日本書紀』など、同館所蔵の貴重書をじっくりと拝観することができました。また稲垣房子氏からは、同館のビジネス支援事業の一環として準備が進む「デジタル情報室」のご説明をしていただきました。

今回の例会は、年度末の繁忙期にもかかわらず、事前の予想を大きく上回る 16 名 (うち非会員 3 名) の参加者を得ました。

今回の例会実施にあたり、種々ご助力いただいた垣口弥生子会員はじめ、同館の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

(文責：事務局)

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。

次号 (88 号) 掲載を希望される場合、3 月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。

今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思えます。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会のお知らせ ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 6月19日(土) 13時30分～14時30分
- 場 所 明治大学司書・司書教諭室(明治大学アカデミーコモン8階)
- 内 容
 1. 2003年度決算について
 2. 2004年度の事業・予算について
 3. 『図書館文化史研究』第21号について
 4. 2004年度研究集会について
 5. 25周年記念事業について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2004年3月6日
場 所：大阪市中央公会堂
地階第1会議室

以下のような事項について、協議しました。

1. 2003年度第3回例会報告
2. 2004年度研究集会について
3. 2004年度第1回研究例会について
4. 『図書館文化史研究』第21号について
5. 『ニューズレター』第88号について
6. 2003年度決算・2004年度予算について
7. 25周年記念事業について
8. 転載許可
9. 国立国会図書館目録カード保存に関する要請について
10. 「入会申込書」の改訂について
11. 会員動向

事務局だより

■■ 会費納入のお願い ■■

2004年度会費をお納めください。会費は3,000円です。会費を納めていただく方には、封筒に「会費振替用紙在中」の朱印を捺し、振替用紙とお願いの文書を同封しました。

■■ 会員動向 ■■

新入会

所属変更

メールアドレス変更

お知らせ：『国際交流』第103号の特集記事について

独立行政法人国際交流基金編集・発行の雑誌『国際交流』第103号（2004年4月）は、阪田蓉子本研究会代表の監修のもと「本が人を動かす：国際交流の場としての図書館」と題する特集が組まれています。

この特集は、阪田代表、宇治郷毅会員、竹内哲日本図書館協会理事長による鼎談「交流する図書館」のほか、岩猿敏生名誉会員の「日本における図書館の歩み」、根本彰会員の「交流の場・図書館：日本での可能性」などの記事が掲載され、大変興味深い内容となっています。